

# ブラジル 医療アクセス改善事業（PE出資）



## AIを活用した効率的なオペレーションにより、低中所得者向けプライマリケアを提供

**事業概要** ブラジルにおいて、低中所得者向けの医療サービスの拡大を支援することで、医療アクセスの改善を図り、もって当国の Universal Health Coverage (UHC) の拡大に貢献する。

### インパクト

#### 1. 既存の官民医療システムに零れ落ちる低中所得者層の存在

ブラジルでは公的医療保険のみでは十分に医療を受けられず、高額な民間医療保険も負担できない低中所得者層が1億人存在。dr.consulta社は、そのような低中所得者層をターゲットとして、2011年ファベラ（ブラジルにおいてスラムや貧民街を指す）に第1号クリニックを開設後、現在30程のクリニックにて、年間70万の患者にプライマリケアを提供。

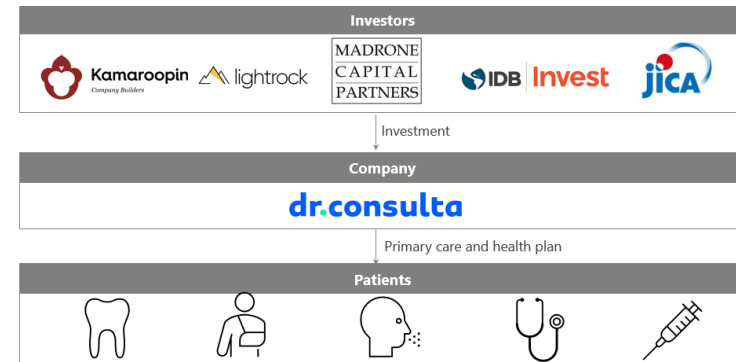
#### 2. 物理的工夫とデジタル技術により低価格な医療工程を実現

クリニックは人口動態、疫学、リソース共有の観点から戦略的に配置され（Hub&Spokeモデル）、患者は当社の全3,000種類以上の医療サービスに5-7km以内でアクセス可能。また、自社患者データから、患者の事前入力情報に基づき医師・看護師のアポイントメントや医療工程の最適化を行うAIアルゴリズムを開発し、オペレーションを自動・効率化。医療の質は、デジタル・標準化された医療ガイドラインで担保。現在患者+4名まで全検査30%割引等を受けられる医療のサブスクや低価格帯の医療保険といった経常型ビジネスに注力。

#### 3. 質の高いオペレーションを支える日本の医療機器

当社医療機器の80%は日本製（キヤノン、コニカミノルタ、東芝、オリンパス、オムロン等）。JICAもビジネスマッチングを支援。

### スキーム図



### クリニック外観

